

本時のねらい

- 平方根の計算に慣れる。
- 生徒自身が達成感を感じ、自己肯定感を高める。

本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

- 学習課題の達成に向けて、生徒の実態把握を行い、生徒自身の困り感に合わせて必要に応じて声をかけている。本人の気持ちに寄り添いつつ、視線の動きを減らして集中力を削ぐことなく、黒板の文字を写す作業を行うことができるよう、タブレット端末を使用する。また、手法は違ったとしても、与えられた課題を周りの生徒と同じように自ら書いて仕上げることで、達成感を味わい、自己肯定感を高める。
- ドリルアプリでの解答は、ノートやプリントより大きな手書き文字で入力することができる。選択式の問題ではタップするだけで解答することができるため、書くことへの負担感を減らすことができる。また、制限時間が表示されるので、集中して短い時間で取り組むことができる。

活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

- 授業支援アプリ (SKYMENU Cloud)
- メモアプリ
- 写真アプリ
- ドリルアプリ (東京書籍)
- 大型モニタ

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (10 分)	○プリント教材で基本問題を解き、答え合わせをする。 【写真 1】	○答えを聞いて丸付けをするが、答えが聞き取れず、書くことが間に合わない生徒もいるため、必要に応じていつでもすぐに解答を示すことができるよう、教員が答えをメモアプリに記入しておく。
展開 (30 分)	○教科書やプリント教材の問題に取り組み、答え合わせをする。その際、黒板に書かれた解答を iPad で撮影し、丸付けや訂正をする。 【写真 2】	○黒板の文字が見にくい等あれば、必要に応じて生徒自身で iPad のカメラアプリで黒板を撮影する。更に、撮影した画像を見やすい大きさに iPad 上で拡大する等、生徒自身で自主的に最適化できるよう見守る。
まとめ (10 分)	○ドリルアプリの基礎復習編に取り組む。 ○放課後に支援教室で、ドリルアプリの基礎復習編に取り組み、これまでに学習した内容を反復して取り組む。 【写真 3】	○本時で学習した内容を踏まえて問題を解き、間違えた問題の確認をその場でを行い、定着を図る。ドリルアプリを使うとすぐに採点され、視覚化されるので、わかりやすい。 ○解答の正誤が自動的に判定されるので、ドリルアプリに慣れようと自主的に進めることができる。

1 人 1 台端末を活用した活動の様子

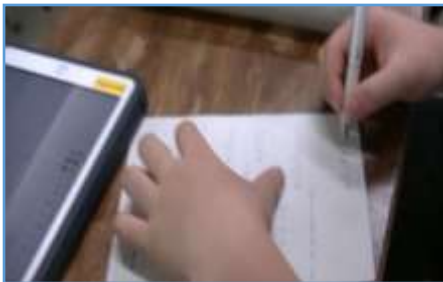


写真 1：メモアプリに解答を記入し、iPad を見ながら答え合わせをしている様子



写真 2：黒板の写真を自分で撮り、iPad を見ながらノートを書く様子

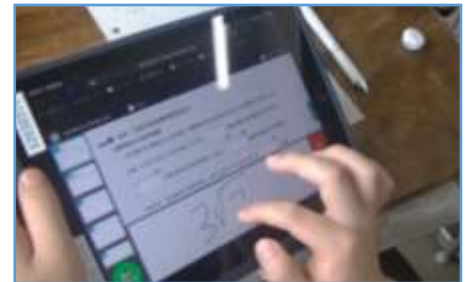


写真 3：iPad のドリルアプリで、本時の学習内容の定着を図る様子

児童生徒の反応や変容

- 板書や大型モニタの内容を生徒がノートやプリント教材に書き写すことが間に合わないことがあり、必要に応じて生徒自身で写真を撮り、画像を元に記入した。あとで保存されている写真を振り返ることもでき、生徒自身のペースで取り組むことができた。ドリルアプリでは答えが思いつかないことも多いが、より基礎的な教材を選ぶこともでき、少しでも答えられるようにした。自分自身でやり遂げることで、「できた」という思いを持ち、自分に自信をもつことで、自己肯定感を高めることができた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- 生徒自身が必要に応じてタブレットを活用することで、授業の遅れを取り戻したり、自分自身でやり遂げたりする機会を増やしていきたい。
- メモアプリや写真アプリを活用したデータ化の手法は、様々な生徒の学習支援や自立支援に役立つと思われる。